

エンジニアリングプラスチックの世界4市場の調査を実施

2010年世界4市場予測

エンブラ26品目合計市場は	926万トン	(05年比31%増)
ポリカーボネート(PC)	380万トン	(05年比37%増)
ポリアミド9T(PA9T)	1.7万トン	(05年比2.8倍)

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 代表取締役 阿部英雄 03-3664-5811)は、06年4~5月にかけて自動車業界、エレクトロニクス業界などの需要拡大によるエンジニアリングプラスチック26品目の動向を調査した。その結果をエンジニアリングプラスチックの最新マーケティング基礎資料として報告書「2006年 エンブラ市場の展望とグローバル戦略」にまとめた。

特に2大使用分野である、自動車とエレクトロニクス分野におけるエンブラごとの動向を分析してその将来動向を予測した。
世界4市場 = アメリカ、ヨーロッパ、日本、日本を除くアジア

<調査結果の概要>

1. エンブラ市場の動向

(1) エンブラ26品目全体市場

2005年 705万トン(前年比8%増) 2010年予測 926万トン(05年比31%増)

自動車分野が好況で、日本自動車工業会の調べでは04年世界の自動車生産台数は6,400万台と前年より約6%増加した。軽量化、低コスト化に向け自動車部品は金属からプラスチックへの代替が盛んであるが、さらに自動車のエレクトロニクス化によりプラスチックの採用率が高まっている。

エレクトロニクス分野では、モバイル端末やデジタル家電の生産拡大が続いて、各種プラスチックを採用した精密小型電子部品も生産が拡大している。

地域別には、精密小型電子部品はコストの削減を求めて中国に生産拠点をシフトし、自動車分野も中国を中心にアジア地域への生産拠点シフトが進んでいる。中国やタイにおいて自動車部品の現地生産が本格化してプラスチックの需要拡大が見込まれている。世界に展開するエンブラメーカーは、コスト上優位なアジアに大型の重合拠点やコンパウンド設備の拡充を図っている。

エンブラメーカーは、エンドユーザーのグローバル展開に伴い、海外への事業展開を強化しており、世界市場における「現地生産対応」と「コスト競争」がますます活発化すると見られる。日系エンブラメーカーは、付加価値の高い製品開発に注力し、特殊製品や新規用途開発に積極的に取り組んでいる。例えば、ノンハロ・ノンリン難燃製品、低VOC製品、寸法精度・強度を改良した製品など、様々な製品でユーザーニーズに答えている。

(2) 汎用エンブラ8品目の市場(数量ベース)

2005年 679万トン(前年比9%増) 2010年予測 888万トン(05年比31%増)

05年、汎用エンブラの世界市場は679万トン、日本市場は82万トンで世界市場の12%を占める。地域別には、日本と、日本を除くアジアを合わせて需要の45%を、次いでアメリカが28%、ヨーロッパが26%を占めている。

今後5年間についても、年率5~6%の伸びを続けて、2010年には、888万トンの需要になると予測する。そのうち、ポリカーボネート(PC)が380万トンと最大であり、5年間の伸びも37%と高く、今後も有望なプラスチックである。自動車分野ではガラスからの代替が進み、エレクトロニクス分野では難燃性を高め、環境に対応して需要を拡大するためである。PCに次いで有望なのはポリアミド6(PA6)とPA66である。ポリブチレンテレフタレート(PBT)やポリアセタール(POM)などは、5年間で20%以上の伸びとなると予測する。

(3) スーパーエンブラ18品目の市場(数量ベース)

2005年 26万トン(前年比7%増) 2010年予測 39万トン(05年比47%増)

スーパーエンブラの世界市場は26万トンと汎用エンブラ市場の4%にも満たないが、日本市場は7.5万トンと、汎用エンブラより世界市場での割合は高く29%を占める。アメリカ、ヨーロッパ、日本を除くアジア、そして日本の世界4市場で、日本の需要が最も大きい。

スーパーエンブラでは、ポリフェニレンサルファイド(PPS)の需要が最も大きく05年7万トンとなった。2010年にかけては、毎年ほぼ7%の伸びを続けて行くと予測する。PPSに次いで、ポリアミド11、ポリアミド12をあわせて5万トン、ポリアミド6Tが3.5万トンと続いている。

スーパーエンブラの中で、今後の伸びが極めて高いと予想される樹脂は、ポリアミド9T(PA9T)、SPS、TPX、LCPなどである。特にPA9Tは自動車向けで06年以降需要が急激に拡大する可能性がある。

2. 今後の注目市場

ポリカーボネート(PC)

2005年 278万トン(前年比13%増) 2010年予測 380万トン(05年比37%増)

光ディスク、液晶パネル、自動車部品、レーザープリンタ部品、パソコン筐体ほかバランスに優れたエンブラとして幅広く使用されている。中国、台湾、その他アジアでは電気電子部品、OA部品や光ディスクを中心に需要が拡大している。世界市場は、中国を中心にアジアで急速に市場規模が拡大して需給がタイトとなった。06年半ば以降、メーカーが新・増設した設備が順次稼動して供給が安定し、世界規模は年率5~8%程度で拡大すると予測される。今後も中国を中心に、電気電子、OA、光メディア、フィルム・シートなどの部品需要が拡大すると期待できる。日本は海外生産シフトの影響はあるが、自動車のヘッドランプレンズの大型化、プラスチック化に伴い、高付加価値製品・用途を中心に底堅い需要が期待できる。中国やタイの自動車部品の生産も本格化するため、アジア地域の需要ウエイトはさらに上昇すると予測する。

05年、三菱エンジニアリングプラスチックスが国内販売シェアトップとなり、世界では、GEプラスチックグループ(アメリカ)とバイエルグループ(ドイツ)がそれぞれ30%近くを、3位には三菱グループと帝人グループ、ダウケミカルグループ(アメリカ)が並んだ。

ポリアミド6(PA6)

2005年 108万トン(前年比8%増) 2010年予測 145万トン(05年比34%増)

世界・日本国内市場ともに、エンジンヘッドカバー、シリンダーヘッドカバー、ラジエータタンクなど自動車部品向け、フィルム・包装向けの需要が好調である。今後の自動車生産の伸び、中国や東南アジアなどでのレトルト食品向けなどの需要拡大が予想され、ともに拡大が見込まれる。今後5年間、年5%の伸びが続くと予測する。日本では、自動車分野において部品のモジュール化が進んでおり、需要が好調である。中国では自動車メーカーの生産工場が集積しており、今後自動車部品の需要拡大が予想される。タイでも自動車部品向けの需要が拡大している。05年時点の参入メーカーでは国内トップシェアの宇部興産が、世界市場でBASF(ドイツ)、ランクセス(ドイツ)、DSM(オランダ)に次いで4位のシェアである。

ポリフェニレンサルファイド(PPS)

2005年 7万トン(前年比4%増) 2010年予測 9.7万トン(05年比40%増)

光ピックアップ、コネクタなど電気電子部品に採用され、04年までDVD需要の拡大から中国を中心にアジアで需要が拡大してきた。06年以降も自動車向け、繊維・フィルム向け需要が伸びて年6~7%で拡大する。高度な成型ノウハウが必要で日本での生産と需要が中心であったが、最近中国生産にシフトしている。自動車部品には耐熱性のほかに寸法安定性や耐薬品性などさまざまな厳しい条件があり、PPSでなくてはならない部品も多い。繊維・フィルム用途でもダイオキシン吸着性能に優れ、フィルター用の需要が伸びている。05年の世界市場販売シェアでは、フィリップスがトップで、大日本インキ化学工業、東レがそれに次ぐ位置を占める。

ポリアミド11、ポリアミド12(PA11、12)

2005年 5.2万トン(前年比4%増) 2010年予測 6.6万トン(05年比28%増)

耐薬品性や柔軟性、耐低温衝撃性などが優れており欧米において、燃料チューブやエアブレーキチューブなどの自動車部品に用いられている。05年は、需要全体の62%が自動車分野であることから市場は欧米を中心に拡大した。今後は自動車生産が拡大する中国などでも自動車向けチューブの需要が伸びると予測する。産業機器分野ではガスパイプ向けに金属からの代替が注目されており、今後アメリカを中心に欧米での需要拡大が期待される。アメリカの自動車業界では、燃料透過規制をクリアする樹脂として注目

され、研究採用が進みつつある。また、産業機器分野では欧米で中圧ガスライン向け金属からの代替として規格化が進み需要拡大が予測される。P A 1 1 を扱う唯一のメーカーであるアルケマ（フランス）が05年のシェアでトップである。日系企業では、宇部興産が3位を占める。

ポリアミド9T（PA9T）

2005年 6千トン（前年比33%増） 2010年予測 1.7万トン（05年比2.8倍）

日本のクラレが開発した樹脂である。耐熱性、吸水性、摺動性、耐薬品性、寸法安定性に優れる。2000年以降、電子部品の表面実装技術（SMT）が鉛フリーハンダ対応したためにアジアで市場が急成長している。これまでは電気電子向けが95%を占めていたが、今後も中国でのSMTコネクタ向けが牽引して年率20%以上で拡大が続くと予測する。さらに、採用評価中の自動車部品でも採用が拡大すると見られ、自動車向けの需要ウェイトが上昇する。欧米の自動車部品メーカーでこの採用評価が行われており、08年以降PA9Tの採用が本格化すると予測する。

調査の概要

<調査対象> 26品目

(1) 汎用エンブラ 8品目

1. ポリカーボネート(PC) 2. ポリアミド6 (PA6) 3. ポリアミド66 (PA66) 4. ポリアセタール(POM) 5. 変性ポリフェニレンエーテル(m-PPE) 6. ポリブチレンテレフタレート(PBT) 7. GF強化ポリエチレンテレフタレート(GF-PET) 8. 超高分子量ポリエチレン(UHMW-PE)

(2) スーパーエンブラ 18品目

1. ポリサルホン(PSF) 2. ポリエーテルサルホン(PES) 3. ポリフェニレンサルファイド(PPS) 4. ポリアリレート(PAR) 5. ポリアミドイミド(PAI) 6. ポリエーテルイミド(PEI) 7. ポリエーテルエーテルケトン(PEEK) 8. 液晶ポリマー(LCP) 9. 熱可塑性ポリイミド(TPI) 10. ポリベンズイミダゾール(PBI) 11. ポリメチルペンテン(TPX) 12. ポリシクロヘキシレン・ジメチレン・テレフタレート(PCT) 13. ポリアミド46 (PA46) 14. ポリアミド6T (PA6T) 15. ポリアミド9T (PA9T) 16. ポリアミド11,12 (PA11,12) 17. ポリアミドMXD6 (MXD6) 18. シンジオタクチックポリスチレン (SPS)

<調査方法> (株)富士経済専門調査員による各社の担当者、業界関係者との直接ヒアリング

<調査期間> 2006年4月～5月

以上

資料タイトル : 「2006年 エンブラ市場の展望とグローバル戦略」

体 裁 : A4判 241頁

発 行 : 2006年6月5日

価 格 : 100,000円(税込み105,000円)

CD-R付きセット価格 110,000円(税込み115,500円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第三事業部 TEL 03-3664-5831(代)

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL 03-3664-5811(代) FAX 03-3661-0165

e-mail: info@fuji-keizai.co.jp

この情報はインターネットでご覧いただけます。

URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>

*****本件に関するお問い合わせは下記までお願いします。*****

富士経済グループ 広報部 TEL 03-3664-5697 0120-156-711